

“インフルエンザ”にご注意を・・・

明けましておめでとうございます。良き新年をお迎えの事と思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

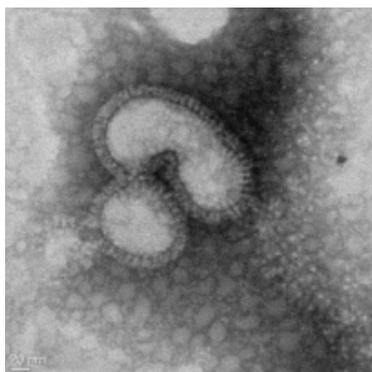
今年の元旦は穏やかな晴天でした。私は実家のある三重に帰省していました。新聞記事によると、東海地区ではあちこちで初日の出を拝む人達で賑わったそうです。私も今年は初日の出を拝む事ができました。

昨日は大雪で、公共交通機関等も大きな影響があり、受講生にも大きな影響がおよび、授業への遅刻や欠席などが多数出ました。1月19日夜半からの雪は明け方すぎまで降り続き、積雪は10数cmになりました。大雪警報が発令され、予め予想をしていたものの、それでも驚きました。

本日、朝起きてスマートフォンのお天気情報(春日井市)を確認したところ、気温が氷点下4度と表示されていました。その表示を目にして、あらためて寒さに震えました。その後、ニュースサイトで本日が大寒だという事を知りました。小寒から立春までの30日間を寒の内といい、大寒はそのまん中にあたります。寒さがさらに厳しくなり、1年中で最も寒い時季です。

さて、今週で15週目の授業が終わり、これから期末評価期間となります。そんな中、1月20日に、愛知県保健医療局健康対策課より“インフルエンザ注意報”が発令されました(<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kenkotaisaku/27influ-chuihou.html>)。記憶が定かではありませんが、例年よりもかなり遅れて出された感じがします。

実は、私は微生物・感染症を一つの専門(研究領域)として研究を進めています。中部大学の分析計測センターでとらえたインフルエンザウイルスの電子顕微鏡像をご紹介します。インフルエンザウイルスは直径約1万分の1mmの大きさで、A、B、C型の3つの型に分類されています。電子顕微鏡写真で確認できますが、インフルエンザウイルスの表面には、スパイクタンパクという糖タンパク質が突き出ています。このスパイクタンパクには2種類あり、ヘマグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)です。これらは、ウイルスが感染を起こすための大切な役割を果たしています。



インフルエンザは感冒(いわゆる風邪)と区別して考えなければなりません。インフルエンザウイルスは伝染性が非常に強く、重症化しやすいのです。あっという間に人から人へうつり、広い範囲で流行します。また、肺炎や脳症などの合併症や持病(糖尿病患者、透析を必要とする腎疾患患者や喘息などの呼吸器疾患患者など)の悪化を引き起こして、死に至ることもあります。インフルエンザの流行時期に一致して日本全体の死亡率が高くなることも報告されています。これらの事から、インフルエンザは慎重な予防対策と発生後の対応が必要だという事がわかってもらえたと思います。最近の我々の研究では、糖尿病モデルマウスを用いてインフルエンザウイルス感染における病態について研究しており、糖尿病患者がインフルエンザウイルス感染のハイリスク者である事を実験的に証明しました(<http://sciencedomain.org/abstract/10286>)。

厚生労働省はインフルエンザ対策の啓発ツールとして各地キャラクターとのコラボ・ポスターを出しています。その中に春日井市のキャラクター「道風くん」のものがありません。ポスターにもありませんが、インフルエンザの予防は、外出後の手洗いとうがい、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取や飛沫感染対策としての咳エチケット等です。そして、何よりも具合が悪ければ早めに医療機関を受診しましょう。

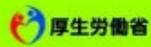
これからがインフルエンザ流行のピークとなります。期末評価試験も実施されると思います。インフルエンザに注意して、春を迎える準備をしてください。最後に、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



初日の出

いっしょに予防インフルエンザ

手洗いでインフルエンザを予防して、かかったらマスク等でせきエチケット。みんなの「かからない」、「うつさない」という気持ちが、インフルエンザの予防にはとても大切です。



●インフルエンザに関する情報

今冬、インフルエンザ 情報

バーコード読み取り機能付き携帯電話もしくはスマートフォンでご利用いただけます。



コモンズセンター長 伊藤 守弘